

わおん 通信

2017
夏号
vol.25

特集

決定！第16回「わかやま環境賞」



CONTENTS

P2 — P3

県内地域の取組

体験教室 親子で楽しみました
探訪！エネルギーの地産地消
芋エネルギーが開く未来の街の扉
地域密着で「環境」を感じるイベント今年も開催

推進員 タダっちの
ああしたら こうなった そのII

P4 — P5

決定！第16回「わかやま環境賞」

P6 県情報

平成29年度水生生物調査
参加者募集!!

P7

推進員さん訪問記²¹
なるほど ザ・ワード

P8

INFORMATION

体験教室 親子で楽しみました

2017年3月5日
2017年岩出市民ふれあいまつり

【ストップ温暖化岩出の会】

3月5日岩出市総合福祉センターで行われた岩出市民ふれあいまつりに、「親子で体験する環境教育」をテーマに今年も出展しました。6種類の体験教室を用意。昨年と同じものは4種類で、新規に「ストローてっぼうの製作」、また「えこわかビンゴ」は、質問内容を変えて楽しんでもらうことにしました。

熱エネルギー差発電は、温

水と冷水を入れるとすぐ発電し、色が変化するペンハムの駒が派手に音をたてて回って大喜びの様子でした。ゴムの力で自走するユーターンカーの製作は、うまくできた時の感激と自動的に動くので、子供にも親にも大変喜ばれました。CO₂濃度測定は目で見えなかったCO₂が、ガスの発生で確認できる体験をしてもらいました。ストローてっぼうの製作は、水で浸したティッシュペーパーの紙玉がピストン役のストローから、ポンと音をたてて飛び出して楽しんでくれました。雲つくり体験では、ペットボトルに取り付けたキャップを30回以上押しフタを開けると、雲ができる現象に喜んでくれました。さらに、えこわかビンゴの体



熱エネルギー差発電体験



ユーターンカー製作体験



えこわかビンゴの体験



ストローてっぼうの製作体験

験では、子供向け温暖化パンフの中を調べて、マス目が9つあるビンゴ形式で、縦、横、斜めに3マス並ぶとOK。粗品を進呈し、100名の親子が参加しました。

今年も天候に恵まれ、お客様が絶え間なく来ていただき、4名の推進員がフル活動で対応したイベントとなりました。(推進員 城)

探訪！エネルギーの 地産地消

2017年5月23日
ごみ発電とメガソーラー見学会

【紀の川市地球温暖化対策協議会/伊都・橋本地球温暖化対策協議会】

地域の再生可能エネルギーの現状を知るため、紀の川市



の「紀の海クリーンセンター」と「メガソーラー発電所」を見学しました。紀の海クリーンセンターは、紀の川市、海南市、紀美野町のごみを収集し、焼却の熱を利用して電気をつくる「サーマルリサイクル」を行っています。最大発電出力は1,950kw。つくられた電気は施設内で自家消費し、余った電気は電力会社に売電を行っています。一方、メガソーラー発電所は昨年11月に創業した和歌山最大規模の施設。ゴルフ場跡地に一面に敷き詰められた63,250枚の太陽光パネルは壮観で

芋エネルギーが開く 未来の街の扉

2017年6月3日 紀の川市
第5回紀の川スマートファーム交流事業

【紀の川スマートファーム協議会】

した。最大発電出力は16,445kwです。国は2030年度の電源構成比で再生可能エネルギー22〜24%を目指しています。夜間は発電されない太陽光のみならず、バイオマス発電や他のエネルギーも高めていくことで、エネルギー資源の乏しい日本にとって、発電方法をバランスよく組み合わせる「エネルギーミックス」の必要があると考えました。(推進員 黒井成男)

「いも」を使ったエネルギーの可能性を探る、紀の川スマートファーム協議会は近畿大学生物理工学部・鈴木高広教授監修のもと「芋の苗水耕



栽培付け体験」を実施しました。会場の実験農場には、親子連れを含めた約30人が苗を植込むフィールドワークを実施。この日用意された500組のポットは、栽培単位ごとに配置され収穫日に向けて、今後様々な実験取組が行われます。収穫祭は10月22日(日)を予定。当日は「芋の収穫体験会」の参加者を募集しておりますのでご参加ください。(推進員 中川皓次)

今年も紀州粉河まちづくり塾主催の「環境祭2017」に出展しました。2013年からJR粉河駅前にある歴史的建造物の古民家「山崎邸」での開催となり地域イベントの一つになりつつあります。昨年に引き続き、今年も近畿大学生物理工学部や、粉河郵便局、子供の未来を考えたお母さんたちで構成されるNPO団体、リサイクル事業所からの展示や活動紹介も行われ

地域密着で「環境」を感じるイベント今年も開催

2017年6月18日
環境祭2017

【紀の川市地域温暖化対策協議会】

- 紀の川スマートファーム協議会構成団体
- (1) 近畿大学
 - (2) 紀の川市地球温暖化対策協議会
 - (3) 紀の川サイクリングクラブ
 - (4) 紀の川里農業協同組合
 - (5) 紀の川市農林商工部農業林業振興課
 - (6) 大栄環境株式会社粉河リサイクルセンター
 - (7) 伊都・橋本地球温暖化対策協議会

ました。また和歌山地方気象台の調査官による「気候変動の現状」についての講演もありました。「エコネットきのかわ」は、気候変動のパネル展示と環境クイズを実施。この日は粉河高校の生徒や地元の人々を中心に約100名が会場を訪れました。午後からは地元のシンガーソングライターによるミニライブ。最後にプロと高校生の合唱もありました。各ブースからは、地元農家が作った梅干しもおみやげとして振る舞われ、また恒例の大抽選会も行われました。(推進員 櫻村 健)



推進員
のぐちの

ああしたらこうなった

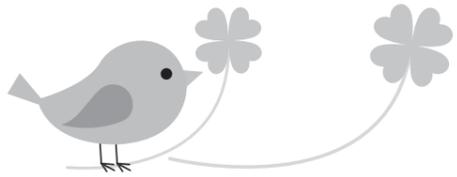
そのII

初体験「炭焼き」やってみました

前回、林地残材の有効利用のお話をしました。梅の伐採木を薪として利用するという取組までの道のりは試行錯誤でした。我々が最初に取り組んだのが、杉の間伐材を備長炭に焼いてみる実験でした。実際に杉の木の間伐体験からはじまり、秋津川地区の備長炭公園にある体験窯をお借りしてプロの炭焼き職人さんの指導のもと、約1tの間伐材を備長炭に焼いてみるというものでした。結果から言いますと、バーベキューにはもってこいの良い炭が約500kg出来上がりました。杉は比較的やわらかい材質なので黒炭並みに火の付きが良く、2時間ほど持ちます。おまけに炎も上がりず灰も残りにくいため、備長炭の特徴も持ち合わせたとて

も使い勝手の良い炭になりました。とまあ、いいことづくめなのですが、窯をお借りするにも職人さんに指導していただくにも料金がかかる為、続けることがなかなか厳しいのが現状です。この事業で平成19年・20年「ストップ温暖化木の国知恵の輪コンクール」に出品、2年連続で入賞し賞金もいただきました。が、何より驚いたのが、メンバーの1人が炭焼のおもしろさにすっかり虜になり、脱サラして本職の炭焼き職人になってしまった事です。

このコーナーでは推進員の方々のCO2削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。



決定！第16回「わかやま環境賞」



平成14年の創設から16回目となった今年の「わかやま環境賞」の表彰式が、6月5日に和歌山県庁内の正庁でありました。

今年の環境大賞には、町民と行政が一体となってゴミの減量や資源ゴミの分別に取り組んだ有田川町さんが選ばれました。有田川町さんは、長年にわたってゴミの減量や資源ゴミの分別に取り組み、今ではリサイクル資源の販売益が町の収入源となっているほどにまで活動を育ててきたことなどが高く評価されました。それだけではありません。有田川町さんは、和歌山県で唯一、環境省のクールチョイス事業に手をあげたり、ダムの放流水を使った小水力発電所に、全国でいち早く取り組んだりするなど、環境問題と地域再生をセットにしたエコな取組を行っている県内でも先進的な自治体です。私達WaCCA(和歌山県地球温暖化



有田川町が二川ダムに設置した小水力発電所は、日本初の試みとして高く評価されている

防止活動推進センター)とも連携し、いろんな取組に挑戦されています。今、有田川町が熱いんです。町内にたくさんある住民活動のいづれもが素晴らしく、その象徴として自治体を表彰しよう、「受賞者は関係する住民さんの全員だ」という位置づけも含めての大賞受賞となりました。

環境大賞に次ぐ環境賞には、生ゴミの資源化と花の栽培で地区のPRに務めた橋本市真土区(まつちく)さんと、学校と地域の環境教育を実践した和歌山市の和歌浦小学校さん、建設業の特色を活かした清掃活動に何十年間も取り組んでこられた和歌山市の三友工業株式会社さんが選ばれました。橋

本市からは過去にも生ゴミの資源化活動での受賞団体がいくつも出ており、同じように熱心な真土区さんの活動も受賞されたということからも、橋本市は活発な地域であることが分かります。和歌浦小学校さんは、子供達が地元の資源を考える、特に「海」「干潟」「漁業」に注目した教育活動が高く評価されました。三友工業さんの受賞は、これぞ地元企業の鏡だ！と言いたくなるほどの長年の奉仕活動が高く評価されました。

さらに、田辺市の天神崎や元島周辺の清掃活動に何十年間も取り組んでこられた平山年夫さん、ゴミの減量や資源リサイクルのための分別回収に取り組んでおられる和歌山市の西和佐婦人会さんには、それぞれ特別賞(感謝状)が贈られました。長きにわたる地域貢献には、素直に感謝したいものです。

温暖化防止のことだけでなく、こういった草の根の地域活動って、とっても大事だと思います。ただ、残念なことに青年層の活動が目立っていません。目立たない地道な活動をしている青年の存在は知っていますが、まだまだ萌芽的な活動だったりして、周囲に波及

していないようです。温暖化防止は、国民全員で取り組む必要のあるものですから、周辺への波及や個人間、集団間の連携も重要です。今回の「わかやま環境賞」を通じて「立ち上がれ若者！」ということを強く感じました。

(センター長 中島敦司)



受賞者のみなさんで記念撮影

わかやま環境賞とは

表彰対象者	県内に拠点を有し環境保全活動を行っている団体又は個人とします。ただし、過去において同一の功績について環境大臣又は知事の表彰を受けている方及び「わかやま環境大賞」「わかやま環境賞」を受賞された方は対象となりません。
対象活動	1. 特色がある活動 2. 多様な立場の人々の参加を得た広がりを持つ活動 3. 環境保全への効果が現れている又は期待できる活動 4. 継続的又は献身的な活動
表彰の種類	わかやま環境大賞 わかやま環境賞 特別賞(感謝状)

わかやま環境賞の目的

環境の保全に関する実践活動が他の模範となる団体又は個人を表彰し、その活動事例を広く県民の皆さんに紹介することにより、環境保全に関する自主的な取組を促進していただくことを目的としています。

応募について

和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL: 073-441-2670 FAX: 073-433-3590
メール: e0320001@pref.wakayama.lg.jp



和歌山県PRキャラクターきいちゃん

平成29年度 水生生物調査 参加者募集!!

川にすむ生物の種類や数を調べて川の汚れ具合を調査しよう。
近所の川の結果はどうだろう。同じ川でも場所によって結果は違うはず。
調査した結果は全国規模で集計されるので、県内や他府県の他の河川と比べてみよう。



参加方法

- ・どなたでも参加頂けます。電話、FAX、Eメール、郵送のいずれかで、①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号、⑤メールアドレスを環境生活総務課までお知らせください。
- ・お申し込みいただいた方に、調査キットを送付します。
- ・数に限りがあり、先着600名です。
- ・調査を実施した後、調査結果をお知らせください。

受付期間 平成29年6月15日～平成29年8月31日

実施期間 平成29年9月30日まで

お申し込み先

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
和歌山県環境生活総務課総務企画班
TEL：073-441-2670 / FAX：073-433-3590
MAIL：e0317001@pref.wakayama.lg.jp



※県庁の環境生活総務課ホームページでも紹介していますのでご覧ください。

(<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/suiseiseibutu/index.html>)

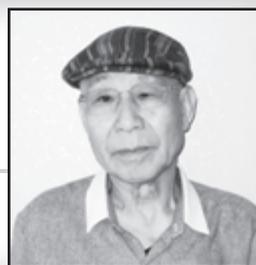
※子供だけの調査は危険です。必ず保護者同伴で行ってください。

※悪天候での調査、危険な場所での調査は絶対に行わないでください。

協力：大阪湾環境保全協会、瀬戸内海環境保全協会

松っちゃんの

推進員さん ひよっこ 訪問記 ①



和歌山市 山城 俊治 さん

推進員第1期生で和歌山市府中にお住まいの山城俊治さんは和歌山市生まれの和歌山市育ち（幼少期は大阪）、地元工業高校を卒業後に専門学校を終了して住友金属和歌山製鉄所に就職、15年後には大阪本社勤務となって燃焼機器のエンジニアとして、また熱工学の人材育成者として18年を過ごして定年退職となりました。その間には経済産業省の技術指導員や中小企業総合事業団のコンサルタントも兼任して全国を飛び回っています。現在も大手電機メーカーの上席コンサルタントやNEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の技術専門家として、また(財)省エネルギーセンターの技術調査員やエネルギー使用合理化専門員を務めています。そしてご自身では「殆んどボランティア」といいますが「エネルギーサービスSY企画」の代表でもあります。

2004年の第1期推進員への応募動機は、仕事の延長線上での“成り行き”だったとか。そして、受講生でありながら省エネの講師も務めたとのこと。また省エネゲームは面白かった！ともいいます。以後、県センターの行事やセミナーには積極的に参加、うちエコ診断員や県内の中小企業省エネ診断では専門家を7人集めて「Wa省」を立ち上げて診断にあたっています。今までの企業診断は合計で500社近く、CO₂削減量は1社平均で10~30%になるとい

います。

さて山城さんは和歌山市温暖化対策協議会の実働部隊「サスティナブル・フォーラム（持続可能な社会を目指す推進員の会）わかやま」、通称「SFわかやま」の会長です。県センターの支援を得て4年前に発足、和歌山市・海南市・岩出市の推進員25人で構成されます。SFのテーマは推進員のスキルアップ。毎月定例会を開いてメンバーが講師を務めたり、行政の出前授業や施設見学などを行っています。また子供・保護者が参加する勉強会やゲームを開催することもテーマですが、人集めが難しいとのこと。

山城さんの家庭は奥さんとの2人暮らし。省エネ暮らしはもちろんのこと、ゴミの分別も指定以上に細かく分けて出しています。が、子供が帰ってくる度に電気代が増えてしまうので悩みの種とか。

山城さんは言います。「地球温暖化防止活動」というネーミングは硬い！もっと柔らかくて面白そうなテーマ・名称はないものかと。また他の推進員の活動分野を覗いてみることも大事と。

75歳を過ぎてますます活躍する山城さん、日本の省エネ技術を支えてきた人は案外、身近にいました。本人は「書かないで！」と言いましたが、山城さんはエネルギー管理の功労者として経済産業大臣賞を受賞しています。

なるほど サ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 ①

*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

南極の氷と海面上昇との関係は？

南極の棚氷の一部が裂け、巨大な冰山となって漂流し始めたことが報じられました。その面積約5800平方kmは和歌山県に淡路島を二つ足したほどの大きさ。これに引きずられて残った内陸部の氷床が不安定になり、連鎖的に崩壊することが懸念されています。

海上にあった棚氷が溶けても海水は増えませんが、内陸部の氷は溶ければ海水を増やしますから、そのぶん確実に海水面を押し上げます。ただ、地球温暖化による海水面の上昇自体は疑いようのない観測事実ですが、陸氷の溶融と海水の熱膨張の二つの要因がそれぞれの程度の影響を与えているかはまだ正確にはわかっていません。しかし、南極やグリーンランドの氷床の減少は明らかに加速しており、今後海面上昇を促

進することは確実です。

なお、温暖化で海水がより多く蒸発し降雪が増えるため、南極の氷床はむしろ増えるとの見方もありましたが、その後の観測で、そうした地域も皆無ではないものの、現在の南極全域の氷床溶解に比べれば取るに足りない程度であることがわかっています。

南極大陸の面積は日本の36倍もあってオーストラリア大陸より大きく、この広大な大地を最大4500m平均2500mの厚さの氷が覆っています。これが全部溶ければ海水面は現在より40~70m上昇します。氷床の溶解速度は気温や海水温のほか、海流、氷床接地面の地形や高度など多くの要因が関わっていて簡単に予測できるものではありませんし、今日明日にも大きな海面上昇が起きるわけでもありませんが、南極の気温上昇は地球平均の倍の速度で進んでいます。目を離せないことだけは間違いありません。

イベント情報

◆紀の川市民まつり

2017年8月20日(日) 16:30~21:00

場所：紀の川市打田若もの広場
 JR打田駅から徒歩15分
 〒649-6422 紀の川市花野135
 出展：紀の川市地球温暖化対策協議会
 和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

◆夏休みこどもまつり

2017年8月27日(日) 10:00~15:00

場所：橋本市きしかみこども館
 JR紀伊山田駅から徒歩3分
 〒648-0085 橋本市岸上203
 出展：伊都・橋本地球温暖化対策協議会
 内容「環境リサイクル教室」

◆ふれあい人権フェスタ

2017年11月11日(土) 16:30~21:00

場所：県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛
 JR和歌山駅から徒歩15分
 〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
 出展：和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
 和歌山県環境生活総務課

◆おもしろ環境まつり

ーわたしのまわりのいろんなこと・見る・さわる・感じてみるー

2017年12月2日(土) 10:00~15:00

場所：和歌山ビッグウエーブ
 JR和歌山駅から徒歩15分
 〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-1
 主催：おもしろ環境まつり実行委員会
 和歌山県地球温暖化防止活動推進センター／
 和歌山大学／(一財)和歌山環境保全公社／和歌山県

募 集

【募集】推進員活動／イベントスタッフ

上記の取組が、推進員としての活動の場となります。

県センターより案内をお送りしておりますが、各種イベント、おまつりのブース出展などで、多くの方に「地球温暖化の今」を知っていただき、気付きや行動につながる声かけができる機会です。

※12月2日の「おもしろ環境まつり」イベントは、県内最大級の環境まつりとなります。当日はたくさんの子供達が来場予定。あなたの協力が欠かせません。一緒にイベントを盛り上げましょう。

あなたの活動をサポート [わかやま推進員サイト](#) [わかやま 推進員](#) [検索](#) イベント情報も随時更新

県センター通信

夏真っ盛りです。今年も各地でたくさんのイベントが開催されます。その中のひとつに、体験型親子向けイベント「おもしろ環境まつり」があります。これまで、各地で行ってきた推進員活動の集大成として、また新たな仲間や関心をつくる取組につながる1日にしたいと思います。来場者には、手を動かし、頭を使い、体験を通じて、わくわくしたり、感心してもらったりできる内容を考えています。引き続きお知らせしてまいります。ぜひ一緒に盛り上げていきましょう！

2017 夏号 vol.25



発行／和歌山県環境生活総務課
 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
 TEL:073-441-2670 FAX:073-433-3590
 mail:e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
 〒641-0014 和歌山市毛見996-2
 TEL:073-499-4734 FAX:073-499-4735
 mail:wenet@vaw.ne.jp



この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。